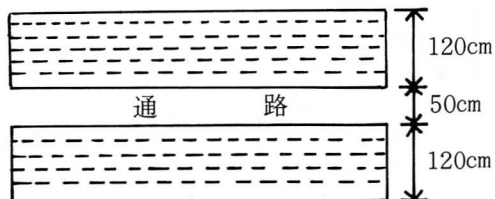


石狩中部地区農業改良普及所 菅 沼 義 一

(3) 畦作り： 発芽を齊一に揃え、しかも立枯病を予防する目的で、鎮圧後本葉 2～3 葉まで、被覆資材（スカイテック、ラブシートなど）を用いる。（幅 150 cm ものを針金などでところどころ押える）。（第 16 図）

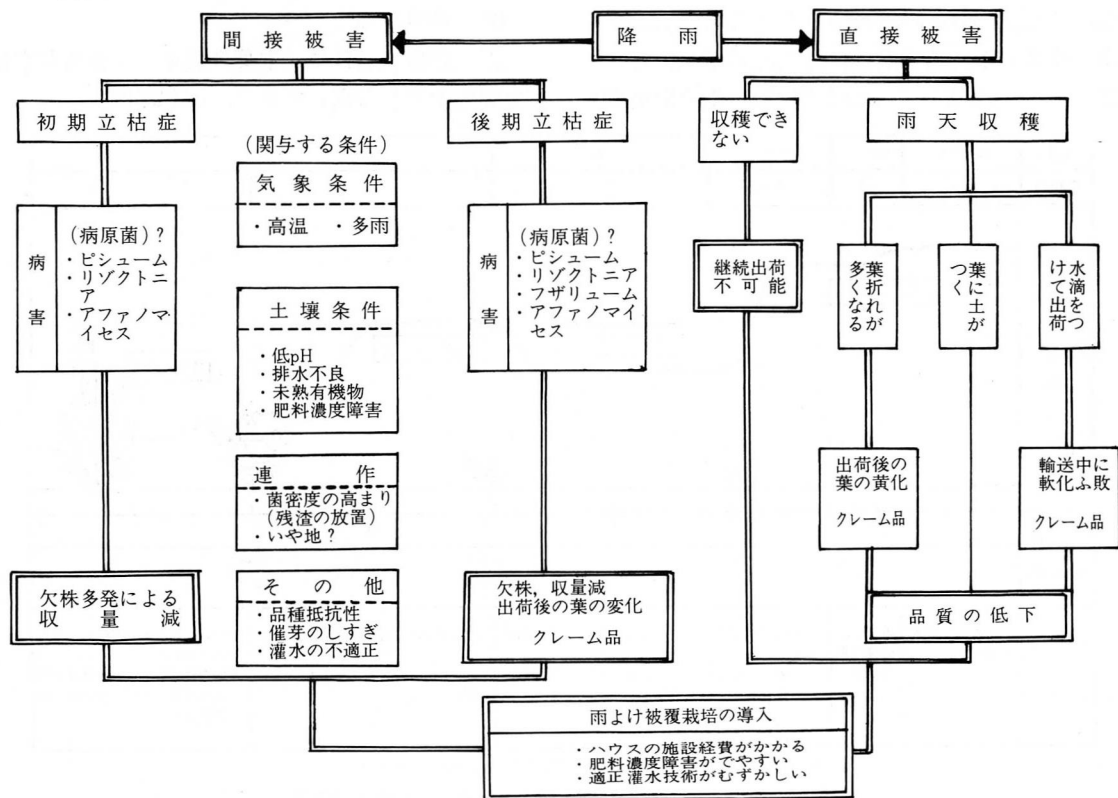


第16図 畦作り

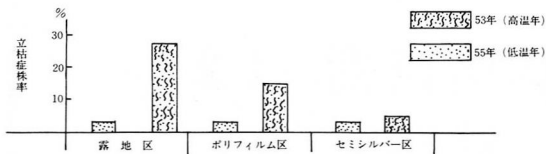
(4) 雨による不安定生産要素（第 17 図）

(5) 雨よけ被覆資材と立枯症率の関係（第 18 図）

(1) 播種の準備（第 19 図、第 20 図）

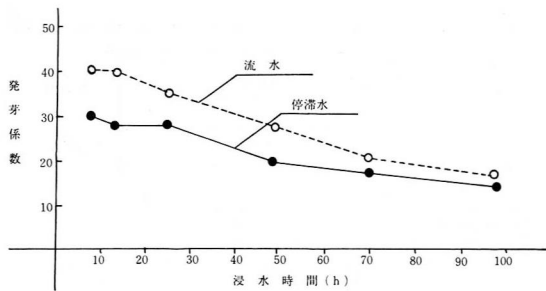


第17図 雨による不安定生産出荷要因



第18図 雨よけ被覆資材と立枯症率の関係
(1978~1980, 旭川地区農改)

註：立枯症状は収穫期の萎凋枯死，黄化株とした。



第19図 浸水方法，浸水時間と発芽の関係
(1976・岐阜高冷地農試)

(註：発芽係数＝発芽率÷平均発芽日数)

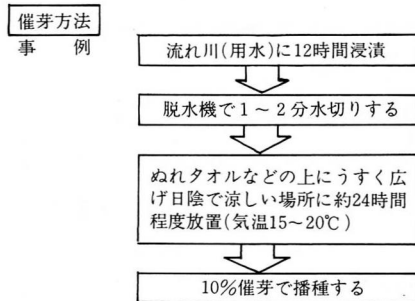
① 種子の浸漬： 水温 15~20℃で，10~12 時間浸漬する。この間 1~2 回水をかえること。なお，流水（用水）がある場合は，流水浸漬する。

② 種子の水切り： 脱水機で 1~2 分程度水

切りを行う。

③ 催芽： ぬれたタオルに種子をうすく広げて，気温 15~20℃の日陰の涼しい場所に 24 時間程度放置する。（放置している間，時々かきまぜ，種子の表面が特に乾いた場合は，水を霧ふきで，かるく与える）。

種子の 10%がハトムネ程度に出芽したときが，播種適期である。



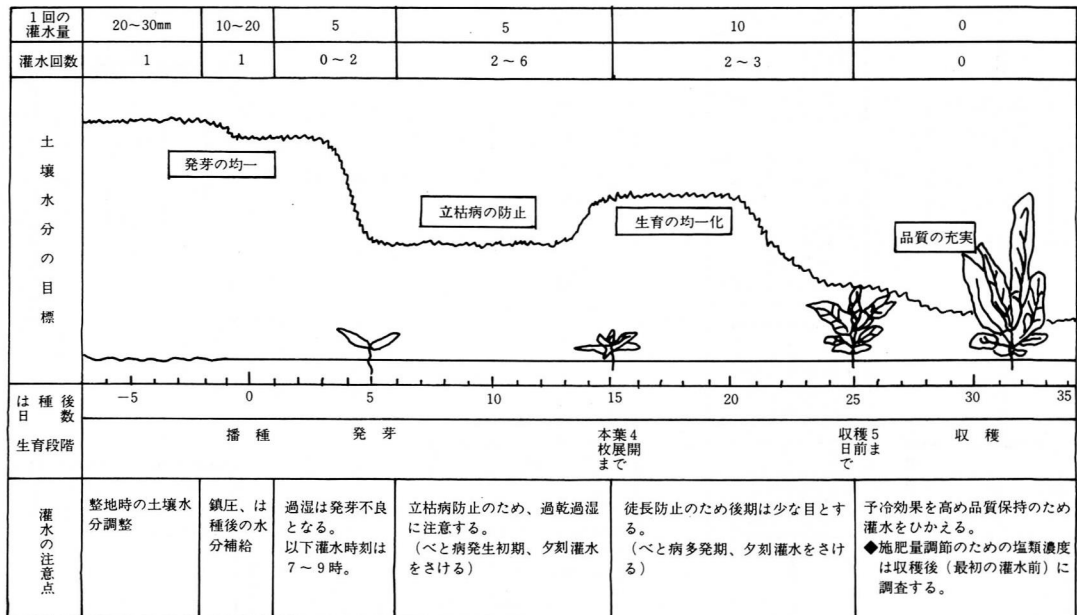
第20図 催芽方法

②

{ 放置している間，時々かきまぜ，種子の表面が特に乾いた場合は水を霧ふきで，かるく与える。

(2) 播種の方法

① 播種の前日に，本葉 3 葉期まで必要な水分を床に十分かん水しておく。（第 21 図）



(1978, 岐阜農試，夏どりホウレンソウの栽培体系組立試験より作図)

第21図 夏どりホウレンソウ，雨よけハウス栽培の灌水基準
(1978, 岐阜高冷地農試)

② 播種作業は、早朝か夕方に行ない、うね切り後直ちに播種、覆土を行なう。

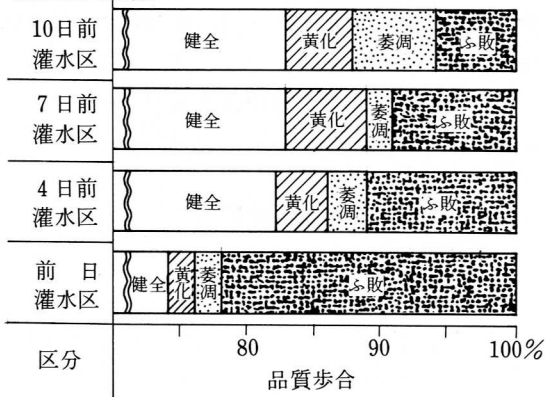
③ 栽植密度：うね幅 20～30 cm、播種粒数は 30～40 粒/m²程度を目標とする。(3.3 m²=1 坪 当たり 150 株確保)

④ 覆土は、やや厚目の 1～1.5 cm とする。

⑤ 鎮圧は、板などで強めに押える。

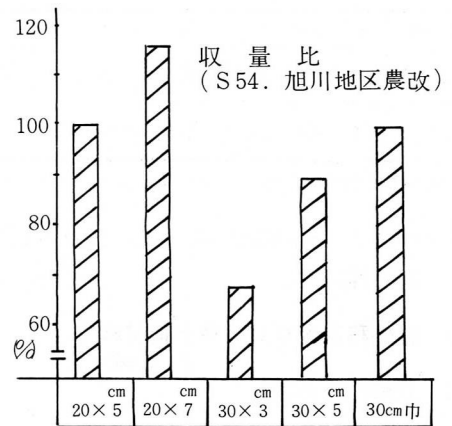
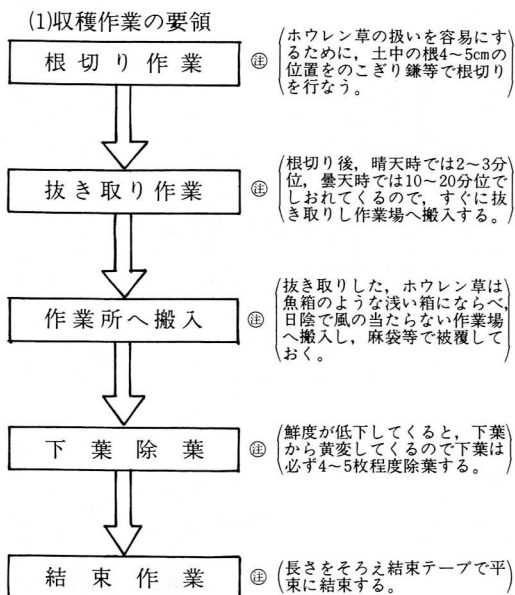
収穫期の灌水は品質を低下させる

(常温72時間後)



第22図 収穫期の灌水と予冷後の品質(葉重歩合)

道外移出ホウレン草出荷基準



第23図 間引による収量差

⑥ シードテープを利用する場合は、綿シードテープとし、種子の封入は 3 cm 間隔とする。

11 ホウレン草の 90%までは水分です

上手に水を使おう ～灌水～

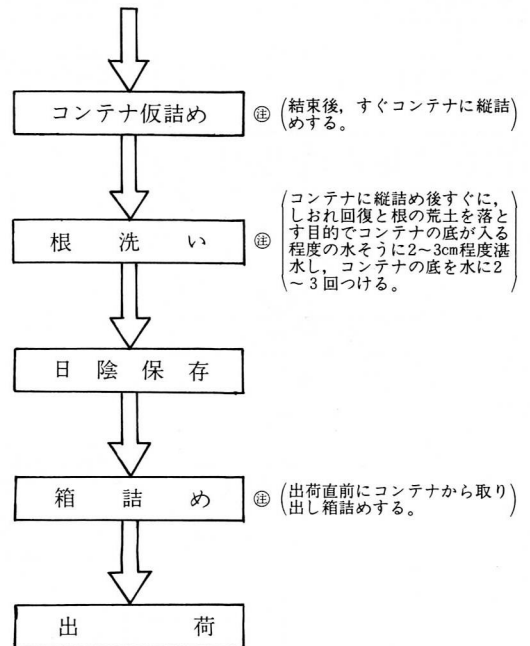
(第 22 図)

12 株揃いをよくし調整労力を省くために

(第 23 図)

間引き (シンフォニーの場合)

本葉 3 枚展開期に株間 7～8 cm(フィルター付の



第24図 道外移出ホウレン草出荷基準

規 格	1 箱 の 量 目	入 目	規 格 基 準	根の長さ	荷 姿
L	1 束200～250 g で25束	10 %	莖葉の長さ28cm～31cm	1 ～ 1.5cm	横 詰 め
M	1 束200～250 g で25束	10 %	莖葉の長さ24cm～27cm	1 ～ 1.5cm	縦 詰 め

タバコの長さ)を目標に間引く。(品質の向上調整、
結束労力の軽減)

- (1) 収穫作業の要領
- (2) 出荷規格 (第7表)
- (3) 厳守事項

② 曇雨天時も、できるだけ収穫作業を行なうよう努力し、抜き取り後、作業所の布テントの上へうすく広げ、2時間程度放置し、その後結束する。

そのまま出荷願ひ、絶対茎葉の水洗いはしないこと。

④ 晴天時は根切り後、長時間放置しておくとしおれが回復しない場合があるので注意し、結束作業は、圃場、移動ハウス内、風当たりの強い場所では絶対に行なわないようにする。

⑤ 結束方法の良否は商品価値のパラメーターとなる。結束に当たってはテープの位置に留意し、まる束は絶対にさける。

(第 25 図)

